

京丹後市観光フォトコンテスト事業

京丹後市の新たな観光資源を発掘

丹後の四季を撮ろう「フォトコンテスト」入選作品決定

— 3月26日 10:00～ 『表彰式』 —

平成19年3月20日

京丹後市役所

京丹後市には、先人たちが築き守ってきた景観や自然環境、歴史ある文化財など、観光資源をふんだんに含み、四季折々さまざまな風景をもっています。

今回、「新・丹後王国“京丹後”」をテーマに、年間を通じた新たな形の観光資源、素材を発見し、その魅力を広く発信していくことを目的とし、「第1回丹後の四季を撮ろう『フォトコンテスト』」を開催。入賞作品が決定し、3月26日（月）に『表彰式』を行います。

同事業は、市内外から広く写真を募集することで観光に対する意識を高めるとともに、入選作品を京丹後市の観光宣伝活動に利用し、年間を通じた観光客誘致の一助として開催したものです。

【京丹後市観光フォトコンテスト概要】

- 主 催 京丹後市
- 後 援 京都府・(社)京都府観光連盟
- テ ー マ 「新・丹後王国“京丹後”」
京丹後市は、先人たちが残した遺産や豊かな自然環境にあふれ、ふんだんな魅力や恵みがいくつもある。そんな「京丹後市」の新しい観光資源を発掘する。
- 募集期間 平成18年6月1日～平成19年2月16日
- 表 彰 最優秀賞3点 賞状・盾・副賞（3万円相当）
(京都府知事賞、(社)京都府観光連盟会長賞、京丹後市長賞)
優 秀 賞5点 賞状・盾・副賞（1万円相当）
入 賞15点 賞状・副賞（5千円相当）
- 応募数 71人 129点
- 審査概要 3月8日 審査員：加藤友一郎氏（写真家）、京都府、(社)京都府観光連盟、観光協会、京丹後市 以上12人が審査
- 入 選 者 (別紙「入選作品一覧表」のとおり)
- 総 評 (別紙「審査結果」のとおり)

【表彰式】

- 日 時 3月26日（月） 10:00～ （30分程度）
- 会 場 市役所 2階大会議室

【入選作品展示会】

開催期間	会 場
3月28日(水)～4月2日(月)	アミティ丹後 コープデイズ豊岡1階ウェルカムコート
4月5日(木)～4月10日(火)	あるでえ丹後2階多目的ホール 丹後あじわいの郷情報交流センター
4月12日(木)～4月17日(火)	豪商「稲葉本家」 大宮ふれあい工房
4月19日(木)～4月25日(水)	宮津シーサイドマートミッブル5階催事場 ショッピングセンターマイン峰山店2階

入選作品一覧表

□最優秀賞(3点) 賞状・盾・副賞(3万円相当)

賞名	題名	受賞者氏名	住所
京都府知事賞	モモ サト 桃の里	カワミ ヒサオ 川見 久雄	網野町
京丹後市長賞	フユ アサ 冬、朝のひとしごと	シズ マサコ 清水 まさ子	久美浜町
(社)京都府観光連盟会長賞	バンカ 晩夏	オギノ ヒロム 荻野 博	峰山町

□優秀賞(5点) 賞状・盾・副賞(1万円相当)

題名	受賞者氏名	住所
コト ヒラ ジンジャ 金刀比羅神社	マエヒラ テルオ 前平 照雄	豊岡市
コウサイ 光彩	カワト カツミ 川戸 勝美	峰山町
シンリョク タキ 新緑の滝	オオマチ セイイチ 大町 誠一	滋賀県野洲市
イカダ フウケイ カキ イカダ 筏のある風景(牡蠣筏)	タナカ マサハル 田中 正治	久美浜町
ゲンソウ リン 幻想のブナ林	ツボクラ ヨシヒデ 坪倉 義英	弥栄町

□入賞(15点) 賞状・副賞(5千円相当)

題名	受賞者氏名	住所
コウヨウガ 黄葉狩り	キンタ マモル 木下 守	網野町
セイカ ソウチョウ タケ 盛夏・早朝「せせらぎ」の竹	ヒラタ ハルヒロ 平田 憲広	東京都板橋区
ヒカリ カゲ 光と影	オカダ ヨシヒロ 岡田 良弘	峰山町
ハル 春につつまれて	ウエヤマ コウジ 上山 幸司	宮津市
タンゴ タテイワ 丹後立岩	キタガキ マサノリ 北垣 正則	弥栄町
タイザ ガニセ イチ 間人蟹競り市	マサダ ヒデオ 増田 英男	弥栄町
フキ キョウ 吹雪の漁港	シラスギ キクオ 白杉 紀久雄	大宮町
ラクジツ 落日	シラスギ キクオ 白杉 紀久雄	大宮町
アヲ ウミ 蒼い海	シノダ ジュンコ 篠田 淳子	久美浜町
ホウサク オカ 豊作の丘	タニグチ マサヒコ 谷口 政彦	宮津市
ユウスゲの咲くころ	オオチ ヨウジロウ 大地 洋次郎	福知山市
サーファーと海	ニシムラ キヨシ 西村 喜與司	与謝野町
アキマツリ 秋祭	オクムラ コウイチ 奥村 浩市	網野町
フユ クミハマ ワン 冬の久美浜湾	イエキ アグミ 家城 安久己	久美浜町
ユウケイ 夕景	コンドウ チョウエ 近藤 長衛	峰山町

第1回丹後の四季を撮ろうフォトコンテスト審査結果

【写真家 加藤 友一郎氏】

総 評

第一印象として、京丹後市の魅力が詰まった四季折々バラエティに富んだ作品が集まったが、傾向として、絵になりやすい安易なものが多かったので、見た目ではなく心に訴えていくような作品をめざしてほしい。

上位の作品は、非常にハイレベルで満足できるものであった。これが指針、前例となり、次回につなげてもらいたい。

時代の流れからデジタルカメラの作品が多く見受けられたが、加工された作品もなく安心した。写真は文字通り実物を写すものであるべき。

京都府知事賞 『桃の里』 川見 久雄

季節感にあふれ、非常に情緒あふれる作品。真ん中に歩く二人がポイントとなり、全体的に鮮やかにまとまっている。また、桃の花と里の風情が融合し、ひとつの物語になっている。

京丹後市長賞 『冬、朝のひとしごと』 清水 まさ子

冬の風物詩。「観光」は“見る”だけでなく、実際に“触れて”経験して味わうものをアピールする作品。野生（1羽のカモ）と人がともに行動していることに親しみを覚える。

(社) 京都府観光連盟会長賞 『晩夏』 荻野 博

家族のふれあい、母子の絆がうまく描かれている。また、シルエットにいやみがなく、ねらいの良さを感じる。また、この単調さがよい。「シンプル イズ ベスト！」